

故西室泰三氏に市民栄誉賞を授与いたしました！

都留市上谷の出身で、東芝や日本郵政で社長を務めた西室泰三氏が、去る10月に、81歳でご逝去されました。

小学校時代を都留市で過ごした西室氏は、慶應義塾大学卒業後、東京芝浦電気(現東芝)に入社、海外事業などを長く担当し、DVDの国際的な規格の統一などで活躍し、平成8年に社長に就任しました。平成17年には、経営者としての実績が高く評価され東京証券取引所の会長に就任。平成25年には、日本郵政の社長へ就任するなど財界の指導者として活躍されました。

また、経団連の副会長や、財務省の財政制度等審議会の会長、さらには、戦後70年談話に関する有識者会議『21世紀構想懇談会』の座長など多くの公職も務められました。

本市におきましては、都留市出身の財界人等で編成された会(桂山会)の会員として、市政発展への助言や、本市での講演会の開催など後進の指導にもご尽力頂きました。

そこで本市では、西室氏の生前のご功績に対し、『市民栄誉賞』を贈呈し顕彰いたしました。

西室氏を偲び、平成11年に作成した市勢要覧(市制施行45周年)に寄稿して頂いた原稿を基に再構成したものを下記に掲載いたします。なお再構成につきましては、西室氏の寄稿文章及び写真を当時のまま掲載しております。



■11月20日(月)、市長より甥の西室 建氏に表彰状と記念品を贈呈いたしました

山の向こうの雲を眺めながら夢見たあの頃

市役所の御好意で自宅に送って頂いている広報紙「つる」が、都留市の現況についての私の有力な情報源である。まず毎月の表紙の幼稚園児の表情から、豊かになった時代と都市化の浸透を見てとって楽しんでいますが、特に愛読しているのは、「文大生の故郷と都留」の連載である。山に囲まれた小都市に縁有って在学している大学生達の新鮮な感想を読みながら、その土地から東京に進学し、そして世界の中でのビジネス体験をしてきた自分の体験を想い出している。

都留市上谷に生まれ、谷村第一小学校を卒業し、谷村中学の一年終了時から東京の中学に転学した。大学在学中に運良く交換留学生としてカナダの大学に学ぶ機会を持ち、その後就職してからも国際事業に携わって米国で14年を過ごし、多くの国を訪問もした。このような人生を歩むことになったのは、両親や姉の薫陶もさることながら、都留の厳しい気候条件に依って養われた忍耐力、克己心と、山の向こうの雲を眺めながら夢見た広い世界への憧れであった様に思う。

故郷という言葉が、ひたすら懐かしく思われる年齢になって改めて都留市に生まれ育ったことの尊さという意味を大切に思い出している。自然の豊かさ、緑、流れる水、山々など、交通の利便化に伴って首都圏への通勤も可能な場所となりながら、環境に恵まれていることのメリットは大いに誇って良いのではなからうか。

市制45周年を迎えた都留市には、自然環境以外にも、先人の卓見に依って設立された市立文科大学という貴重な文化資産がある。今後とも、小規模でも文化の香りのする、夢と希望を持った若者を輩出する都市、定住者にとっても満足度の高い都市として力強く成長していけることを希望している。

